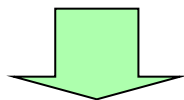


長野市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年5月～24年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 善光寺の門前町として発展してきた長野市
- 住宅、店舗等の郊外立地
- 核家族化、少子高齢化の進展
- H12中心市街地の基幹大型店舗(2店)の閉店



○人口減少 中心市街地10%減

H11 : 10,697人 → H18 : 9,660人 (市全体の人口増減は0%)

○中心市街地の魅力が減退

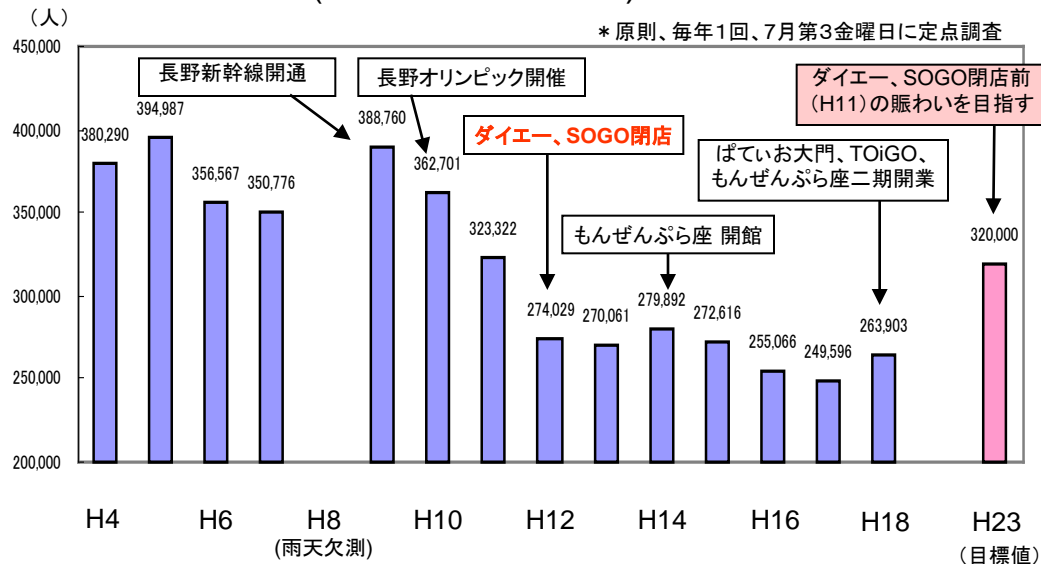
売場面積 H11 : 139,217m² → H16 : 112,432m² (△19%)

○善光寺を訪れる観光客が中心市街地に訪れることなく通過してしまう

【目標】

目標	指標	現況値(H18)	目標値(H23)
訪れたいなるまち	歩行者・自転車通行量 (善光寺仁王門前)	8,552人	10,000人
住みたいなるまち	居住人口	9,660人	10,900人
歩きたいなるまち	歩行者・自転車通行量 (中心市街地15地点)	263,903人	320,000人
参加したいなるまち	交流拠点施設利用者数	300,726人	368,000人

(歩行者通行量(中心市街地15地点)の動向と数値目標)



善光寺表参道の歩行者優先化により旧法で整備した拠点を結ぶ回遊空間の創出を行うとともに、市民文化活動の活性化などを通じたまちづくりにより賑わいを回復し、門前都市「ながの」の形成を目指す。

長野市中心市街地活性化基本計画の事業概要

「歩きたくなるまち」

「訪れたくなるまち」

『門前都市「ながの」』の核 善光寺

「住みたくなるまち」

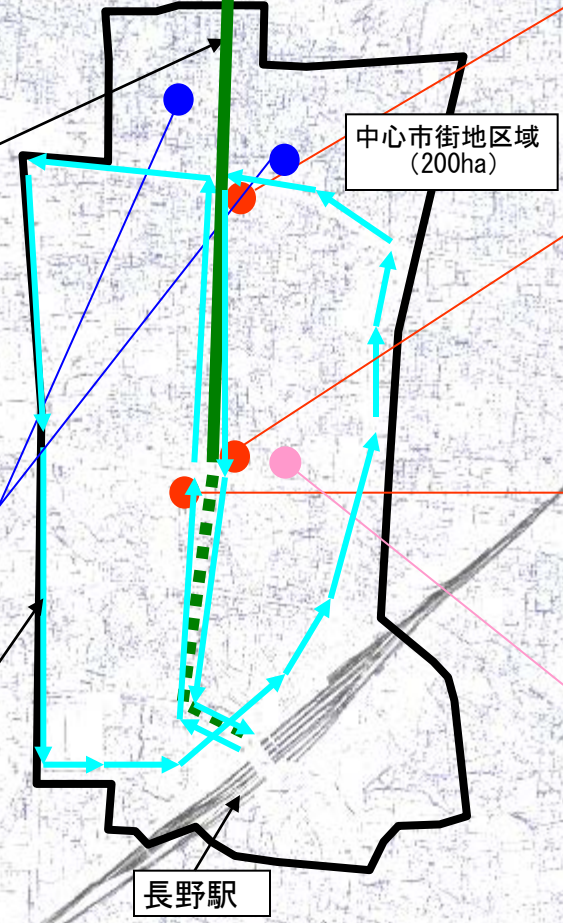
「参加したくなるまち」



中央通り歩行者優先道路化事業



善光寺



中心市街地
区域
(200ha)

長野駅

○一店一カルチャー等の「善光寺表参道文化村事業」、市民等のまち美化等を支援する「もんぜんパートナーシップ事業」等、地域活動の活性化

○古民家を活用した商業施設「ぱていお大門」において観光案内事業の充実等を推進

「ぱていお大門」運営事業



○商業施設、公益施設、放送局、広場の複合施設「TOiGO(トイーゴ)」(そごう跡地に整備)において、生涯学習やイベント等を開催

「TOiGO」活用事業



○食品スーパーや公益施設が入る「もんぜんぶら座」(ダイエー撤退後のビル活用)において、観光案内所の設置や託児機能導入など、民間提案による新規事業も実施

「もんぜんぶら座」活用事業



○ホテルが生息する環境の維持しつつ親水性水路を整備

親水性水路建設事業



○まちなか居住の悩み等に応える「まちなか住まいよろず情報局」の設置等まちなか居住支援事業の実施

○低未利用地を活用した新たな公共公益施設や公園等の整備を検討

○中央通り(善光寺表参道)で実施してきた社会実験(対面2車線の1車線を歩道とし、拡幅されたスペースを利用してオープンカフェやイベント等を実施)を恒常化



○善光寺裏側(北側)に集中している観光用駐車場を表側(南側)に整備することで中心市街地への回遊促進

○LRTに代表される新交通システムの導入の可能性について調査研究

「ぐるりん号」



○市街地循環バス「ぐるりん号」のルート・ダイヤ改正等の利便性向上

○時間貸し駐車場の利用者の利便性向上を図るため、現在試行中の共通駐車券化を本格実施

○郊外駐車場からのシャトルバス、駐車場利用者へのぐるりん号乗車券配布等によるパーク&バスライド事業や貸自転車事業による回遊性の向上